

2026年度

夏秋きゅうり防除暦(前半)

JA中野市園芸課

JA 中野市きゅうり部会

	防除時期	使用薬剤名	水 100 ℥ 当りの量	使用量	使用 回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備 考
1	定植時 5月上旬 下旬	アクタラ粒剤5 オリゼメート粒剤		1g/株 5g/株	1回 1回	P2	4A	アブラムシ類、トマトハモグリバエ コナジラミ類 斑点細菌病	ベリマークSC処理苗の場合、アクタラ粒剤5を使用しなくてよい
2	5月 下旬	展着剤(ハイテンパワー) ウララDF ダコニール 1000	10ml 50g 100ml	200L	3回以内 12回以内	M5	29	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、うどんこ病、炭そ病、褐斑病 灰色かび病、黒星病	
3	6月 上旬	展着剤(まくひか) アルバリン顆粒水溶剤 オーソサイド水和剤 80	30ml 50g 166g	30ml 50ml 100g	2回以内 5回以内	M4	4A	アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類、ウリハムシ、カメムシ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	
4	6月 上中旬	展着剤(まくひか) アディオン乳剤 カーニバル水和剤	30ml 50ml 100g	30ml 100ml 50ml 166g	3回以内 3回以内	40+M5	3A	アブラムシ類、オンシツコナジラミ ウリハムシ、べと病、 炭そ病、褐斑病、うどんこ病	
5	6月 中旬	展着剤(まくひか) ダニサラプロアブル プレバソンプロアブル5 ジマンダイセン水和剤	30ml 100ml 50ml 166g	30ml 100ml 50ml 166g	2回以内 3回以内 3回以内	M3	25A 28	ハダニ類、ウリノメイガ、ハモグリバエ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
特別	6月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		5回以内	1		つる枯病	発病初期に接ぎ木部を 中心に地際から 20cm 塗布
6	6月 下旬	展着剤(ハイテンパワー) ダントツ水溶剤 ドーシャスプロアブル	10ml 50g 100ml	10ml 50g 100ml	3回以内 4回以内	21+M5	4A	アブラムシ類、カメムシ類、 ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類 炭そ病、べと病、うどんこ病、 褐斑病、黒星病、	
7	6月下旬 ～ 7月上旬	展着剤(まくひか) スピノエース顆粒水和剤 ダイパワー水和剤	30ml 20g 100g	30ml 20g 100g	2回以内 5回以内	M7+M4	5	アザミウマ類、ハモグリバエ類、 ウリノメイガ うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
8	7月上旬	展着剤(まくひか) ジマンダイセン水和剤	30ml 166g	30ml 166g	3回以内	M3		べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	アブラムシ類の発生が心配 される場合は「ウララDF」 (2,000倍)を加用する。
9	7月 中旬	展着剤(アビオン E) ヨーバルプロアブル カーニバル水和剤	100ml 40ml 100g	100ml 40ml 100g	3回以内 3回以内	40+M5	28	ハスモントウ、アブラムシ類、コナジラミ類 ウリノメイガ、ハモグリバエ類、アザミウマ類 うどんこ病、べと病、褐斑病、炭そ病	
10	7月 中下旬	展着剤(アビオン E) コロマイト乳剤 ミギワ 10 フロアブル	100ml 100ml 100ml	100ml 100ml 100ml	2回以内 3回以内	52	6	チャノホコリダニ ハダニ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類 菌核病、炭そ病、つる枯病、灰色かび病	つる枯病が発生している場合「スミレックス水和剤」 (1,000倍)を加用する。
特別	7月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		5回以内	1		つる枯病	発病初期に接ぎ木部を 中心に地際から 20cm 塗布
11	7月 下旬	展着剤(まくひか) コルト顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	30ml 25g 166g	30ml 25g 166g	3回以内 3回以内	M3	9B	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
12	7月下旬 ～ 8月上旬	展着剤(まくひか) トレボン乳剤 ゲッター水和剤	30ml 100ml 66g	30ml 100ml 66g	3回以内 5回以内	10+1	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、灰色かび病、菌核病	

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

当防除暦の複製・コピーを禁止します

夏秋きゅうり防除暦(後半)

防除時期	使用薬剤名	水100ℓ当りの量	使用量	使用回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備考
13 8月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ディアナSC セイビアーフロアブル20	10ml 40ml 100ml	300L	2回以内 3回以内	12	5	アザミウマ類、コナジラミ類 ハモグリバエ類、ウリノメイガ 褐斑病、灰色かび病、菌核病	アブラムシ類が発生している場合は、「トランスフォームフロアブル」(2,000倍)を加用する。
14 8月上旬	展着剤(まくひか) アルバリン顆粒水溶剤 ベルクート水和剤	30ml 50g 50g		2回以内 7回以内	M7	4A	アブラムシ類、アザミウマ類、 コナジラミ類、カメムシ類、ウリハムシ うどんこ病、褐斑病、炭そ病、灰色かび病	ハダニ類が発生している場合、8月中旬のカネマイトフロアブルを前倒しで散布。
15 8月中旬	展着剤(まくひか) カネマイトフロアブル ダイパワー水和剤	30ml 100ml 100g		1回 5回以内	M7+M4	20B	ハダニ類 うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
16 8月中旬～下旬	展着剤(ハイテンパワー) プレオフロアブル セイビアーフロアブル20	10ml 100ml 100ml		2回以内 3回以内	12	UN	ウリノメイガ、アザミウマ類、 ハモグリバエ類 褐斑病、灰色かび病、菌核病	
17 8月下旬	展着剤(まくひか) トレボン乳剤 オーソサイド水和剤80	30ml 100ml 166g		3回以内 5回以内	M4	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	褐斑病、炭そ病の発生がある場合は「オーソサイド水和剤80」に代えて「ダイパワー水和剤」(1,000倍)を散布する。
18 8月下旬～9月上旬	展着剤(まくひか) ベルクート水和剤	30ml 50g		7回以内	M7		うどんこ病、褐斑病、 炭そ病、灰色かび病	
19 9月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000	10ml 100ml		12回以内	M5		炭そ病、べと病、うどんこ病 褐斑病、黒星病、灰色かび病	①害虫が発生している場合「プレバソンフロアブル5」(2,000倍)を加用する。 ②アブラムシ類が発生している場合「コルト顆粒水和剤」(4,000倍)を加用する。
20 9月中旬	展着剤(まくひか) モレスタン水和剤	30ml 50g		3回以内	M10	UN	うどんこ病、コナジラミ類	害虫が発生している場合は「トレボン乳剤」(1,000倍)を加用する。
21 9月下旬	展着剤(まくひか) トップジンM水和剤	30ml 66g		5回以内	1		うどんこ病、炭そ病、灰色かび病 つる枯病、黒星病、菌核病	

混用順序：展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル → ドライフロアブル(DF) → 顆粒水和剤(WDG) → 水和剤

※ 曇天・長雨などで日照不足時には「オルガミン(1,000倍希釈)」と「ハイプログリーン(1,000倍希釈)」を葉面散布する。

※ 敷設間隔は5～7日を目安とし、降雨の前後は間隔を縮めて敷設してください。

※ 農薬の混用順は下記を参考にしてください。

※ 気象条件や管理、品種等により発生病害虫が変わるので、病害虫防除基準を参考しに状況変化に対応して下さい。

※ アミスター20 フロアブル、アミスターOPティーフロアブル、フリントフロアブルは、浸透性のある展着剤(ニーズ、アプローチ BI、ミックスパワー等)とは混用しない。

※ うどんこ病が発生している場合は、発生初期にモレスタン水和剤2,000倍・ネクスターフロアブル1,000倍液で敷設する。

※ IRAC・FRACのコード番号が連続しないように防除を組む。

主な葉面散布剤

商品名	成分等	使用目的	倍率
オルガミン	窒素0.11%、苦土4%、ほう素0.7%、カリ0.11%、マンガン0.25%、アミノ酸入り	光合成促進、成績回避	1,000倍
ハイプログリーン	窒素6%、リン酸5%、カリ5%、アミノ酸入り	成績回避・光合成促進	500倍
アミノメリット特青	窒素12%、リン酸3%、カリ3%、アミノ酸、ポリリン酸、マンガン、ほう素、鉄、銅、亜鉛、モリブデン入り	成績回避・光合成促進	500倍
ボロンセブン	窒素3%、リン酸6%、カリ5%、ホウ素7%、マンガン5%、苦土5%	ホウ素欠乏(くびれ果)対策	1,000倍